

あさ日かけ匂ひ出つれば
大空のすめるこゝろを
幾千年かはる事なき
千代かけて喜ひ祝ふ

友鶴もなきて行くなり
人皆の心になして
白川のせゝの白ゆふ
今日もそれしき。

反歌 ものゝふのおふてふやのゝ一筋に祝ふはけふの足日なりけり

祝紀念會歌

植松 厚

たつだやま	峯の常盤木	千代かけて	變らぬ如く
とこしへに	流れも清き	白川の	まことまじりの
水の面に	影やとせよと	君が代の	深きめぐみに
たてそめし	學びどころは	としくくに	四方よりつどふ
男子々を	いやましつゞぞ	榮えゆく	其こしかたを
忘れぬため	年毎ひらく	紀念會	小春の日影
うらゝかに	いでめるどちは	競ひ合ひ	見むとて來る
人々は	わかきおいたる	いりまじり	庭にまげれる
姫小松	こけのみすまで	盛なる	今日の祝を
まづや賤	賤の緒だまき	くりかへし	末長かれと
萬代を	歌ふ今日こそ	目出度けれ	

反歌 樂しさをなにとたどへん六つとせを重ねて祝ふけふのまどゐの